
化粧

聖魔光闇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

化粧

【Nコード】

N6374R

【作者名】

聖魔光闇

【あらすじ】

鏡に向かって真剣に姉が何かやってる。

(前書き)

不思議だ……。

「なあ、アネキ。何やってんの？」

「見たらわかるでしょ！ 化粧よ化粧！」

「それは見たらわかる」

「じゃあ、何故聞くのよ！？ ってか、あんた！ 何故ここにいるのよ！ ノックは常識だつて言ったでしょ！」

そう俺は今、不思議な事を行っている姉の横から話し掛けている。

『ノックを知らない女が、何が常識だつて言うんだ！』

俺の姉はノックをしない。俺の部屋に入ってくる時も、気が付いたら近くにいる。

「アネキがそれを言うか……」

「うるさいわねえ！ 邪魔よ、化粧の邪魔！」

姉に手でシッシツとされた。

「なあ、何やってんの？」

もう一度、同じ事を聞く。

「化粧だつて言ってるでしょ！」

姉はうんざりした口調で答えてきた。

俺も飽きてきたので、部屋から出る事にした。一言残して……。

「何故、パックの上に化粧してんだ？ それが疑問なんだよなあ」

「うるさいわねえ！ 練習よ！ 練習！ ってあんたが余計な事言うから、ミスったじゃない！」

『ドア越しに何か怒鳴ってやがる……。
ほっと』』

「またミスったあ！」
遠くから、悲鳴に近い声が聞こえてきた。

『知らない。知らない』

(後書き)

練習って……。何故パツクの上から？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6374r/>

化粧

2011年10月8日01時04分発行